

味の素株式会社
2016年3月期業績予想と今後の展望

2015年11月5日

取締役社長 最高経営責任者
西井 孝明

目 次

I. 2016年3月期 予想概況	
2016年3月期 業績予想	P2
2016年3月期 予想営業利益の増減要因	P3
セグメント別業績予想概要	P4
2016年3月期 経常利益、純利益予想	P5
目指す営業利益の構成	P6
「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」に向けたロードマップ	P7
II. GROW 成長モメンタムの加速化	P9-17
III. FIT 更なる構造改革	P19-22
IV. 経営基盤の進化	P24-25
V. ESGの取り組み	P27
VI. 2016年3月期 財務戦略	P29-30
参考資料 日本のコーヒー市場概況、コーヒー豆の基本情報	
2016年3月期予想の前提条件	

I . 2016年3月期 予想概況

2016年3月期 業績予想

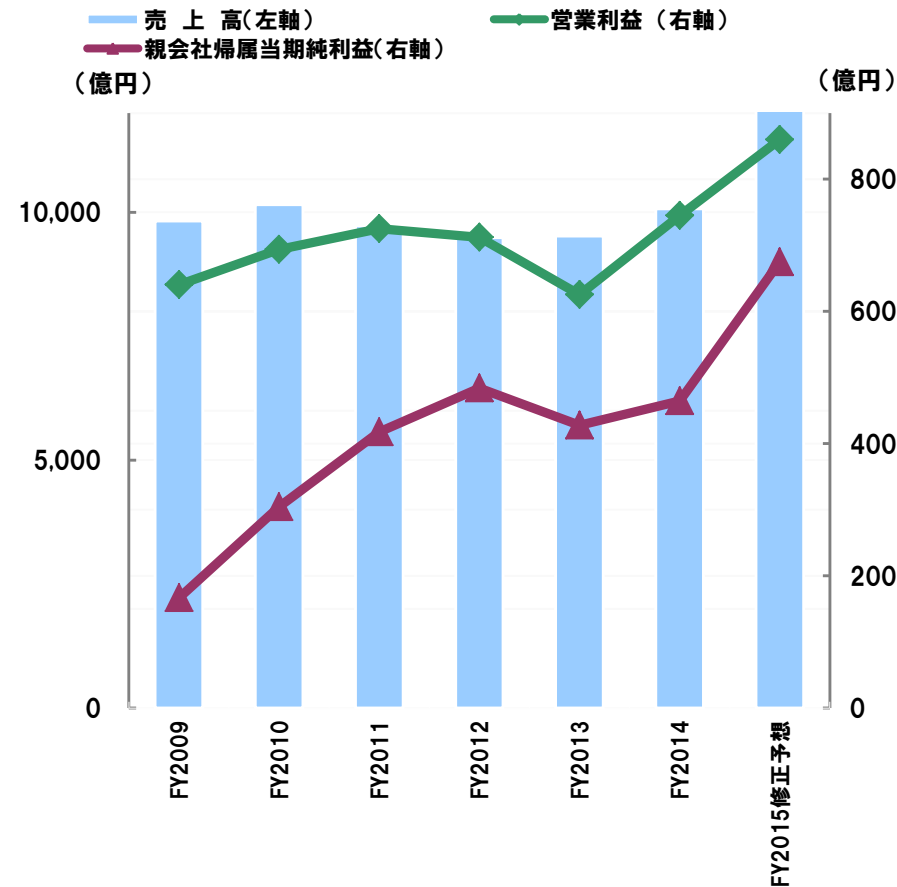
売上高は期首予想変更なし。
営業利益は上方修正。(海外食品で上方修正。一方、日本食品、医薬事業で下方修正。)

	FY2015 修正予想	FY2014 実績	前年比
変更*箇所:赤字			
売上高(億円)	12,630	10,066	125.5%
営業利益(億円)	860	745	115.4%
親会社帰属当期純利益(億円)	675	465	145.2%
一株あたり当期純利益(円)	114.72	78.54	146.1%
*2015年8月27日公表「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」からの変更 <参考>ウインザー社、AGF社のれん等償却影響を除く			
のれん等償却(億円)	70	8	-
のれん等償却前営業利益(億円)	930	753	123.4%

<期首予想*からの修正点>

■ 営業利益

- + :加工用うま味調味料の貿易為替影響
- + :海外調味料・加工食品の伸長
- + :コーヒー類の製品改訂および原価低減
- ▲ : エーザイ社との消化器疾患領域事業統合による諸費用発生
- ▲ : ギフト市場縮小影響



※売上高はFY2011より販促値引き等を控除した新基準。

2016年3月期 予想営業利益の増減要因

為替前提変更。
原燃料価格は対前年、低位で推移し、期首予想変更。

<変更箇所:赤字>

為替前提 (対円)

	FY2015 修正予想	FY2015 期首予想	1H-FY2015 実績*
USD	120.0	115.0	121.9
EUR	135.0	143.0	135.1
THB	3.5	3.5	3.6
BRL	34.0	45.0	36.9

*期中平均レート

為替影響(対前年、億円)

	FY2015 修正予想	FY2015 期首予想	1H-FY2015 実績*
換算	+2	+23	+19
貿易	+44	+10	+15
合計	+46	+33	+34

原燃料価格変動影響概算

(対前年。▲=コストアップ。単位:億円)

	FY2015 修正予想	FY2015 期首予想	1H-FY2015 実績
発酵主原料	32	▲ 13	20
発酵副原料	13	▲ 1	8
発酵エネルギー	15	▲ 2	9
国内食品原材料	▲ 7	▲ 21	▲ 3
原燃料合計	53	▲ 37	34

セグメント別業績予想概要

(単位:億円)

	2016年3月期				2016年3月期				修正額 (A)-(B)	2015年3月期				対前年増減額・率	
	修正予想 (A)	営業 利益率	のれん等 償却費除く 営業利益率 ※	のれん 等償却 費	期首予想★ (B)	営業 利益率	のれん等 償却費除く 営業利益率 ※	のれん 等償却 費		実績 (C)	営業 利益率	のれん等 償却費除く 営業利益率 ※	のれん 等償却 費	(A)-(C)	(A)/(C)
売上高	12,630				12,630				0	10,066				2,563	15%
日本食品	4,045				4,072				▲ 27	2,890				1,154	39%
海外食品	5,027				5,000				27	3,841				1,185	30%
ライフサポート	1,575				1,575				0	1,491				83	5%
ヘルスケア	1,357				1,357				0	1,209				147	12%
その他	626				626				0	633				▲ 7	▲1%
営業利益	860	6.8%	(7.3%)	70	820	6.4%	(7.0%)	70	40	745	7.4%	(7.4%)	8	114	15%
日本食品	268	6.6%	(7.2%)	24	279	6.8%	(7.4%)	24	▲ 11	248	8.6%			20	8%
海外食品	432	8.5%	(9.5%)	46	363	7.2%	(8.1%)	46	70	319	8.3%	(8.5%)	8	112	35%
ライフサポート	128	8.1%			128	8.1%			0	143	9.6%			▲ 15	▲10%
ヘルスケア	37	2.7%			52	3.8%			▲ 15	31	2.6%			5	18%
その他	▲ 5	▲0.3%			▲ 2	▲0.3%			▲ 3	2	0.3%			▲ 7	-
経常利益	890				850				40	828				61	7%
親会社帰属当期純利益	675				650				25	464				210	45%
為替レート 円/USD	120.0				115.0					109.76					
円/ユーロ	135.0				143.0					138.69					

赤字:変更箇所

★ :2015年8月27日公表「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に基づく。

※ :ウインザー社、AGF社ののれん等償却費。ただし、AGF社は暫定値。

2016年3月期 経常利益、純利益予想

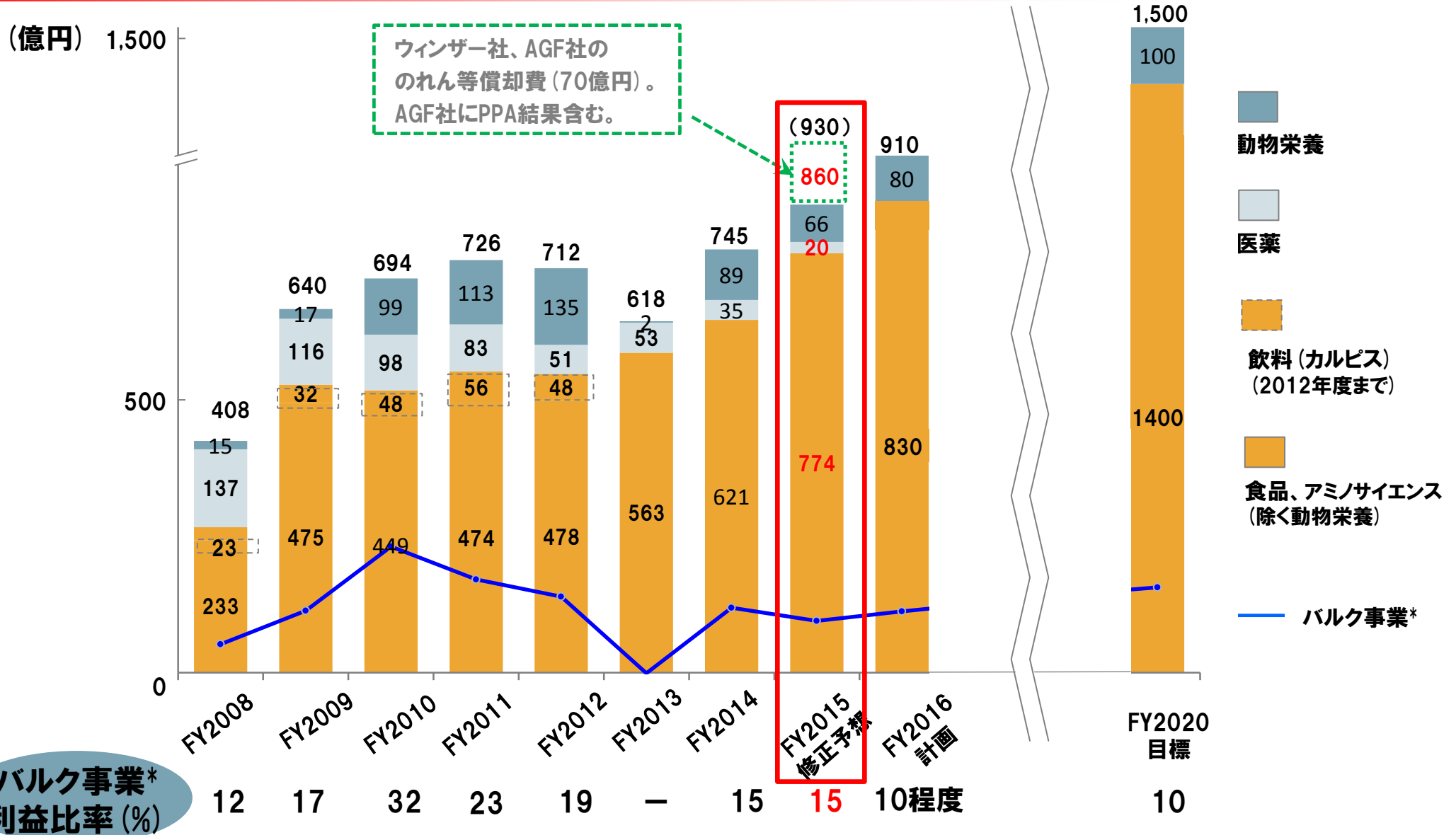
各段階利益の増加に伴い、過去最高の純利益を見込む。

★8月27日付予想からの
変更箇所。

	(億円。+が益。)	FY2015 修正予想	FY2014 実績	差異	主な内容
売上高		12,630	10,066	2,564	
★ 営業利益		860	745	115	
営業外収支(▲損)		30	82	▲ 52	
受取利息		27	28	▲ 1	
受取配当金		9	11	▲ 2	
持分法投資損益		29	51	▲ 22	AGF社連結影響
支払利息		▲ 27	▲ 21	▲ 5	
その他		▲ 8	12	▲ 20	
★ 経常利益		890	828	61	
特別損益(▲損)		250	▲ 37	288	
段階取得に係る差益		180	0	180	FY2015 AGF社
関係会社株式売却益		250	0	250	FY2015 日清味の素アリメントス社
固定資産除売却損		▲ 34	▲ 18	▲ 15	
減損損失		▲ 1	▲ 104	103	
その他		▲ 145	85	▲ 230	
税金等調整前当期純利益		1,140	790	349	
法人税等		372	236	135	実効税率 FY2014:29.9%、FY2015予:32.6%
当期純利益		768	553	214	
被支配株主に帰属する当期純利益		93	88	4	
★ 親会社帰属当期純利益 ※		675	464	210	

目指す営業利益の構成

～ バルク事業比率をコントロールし、全事業で「スペシャリティ」を追求することで、利益の質を高める ～



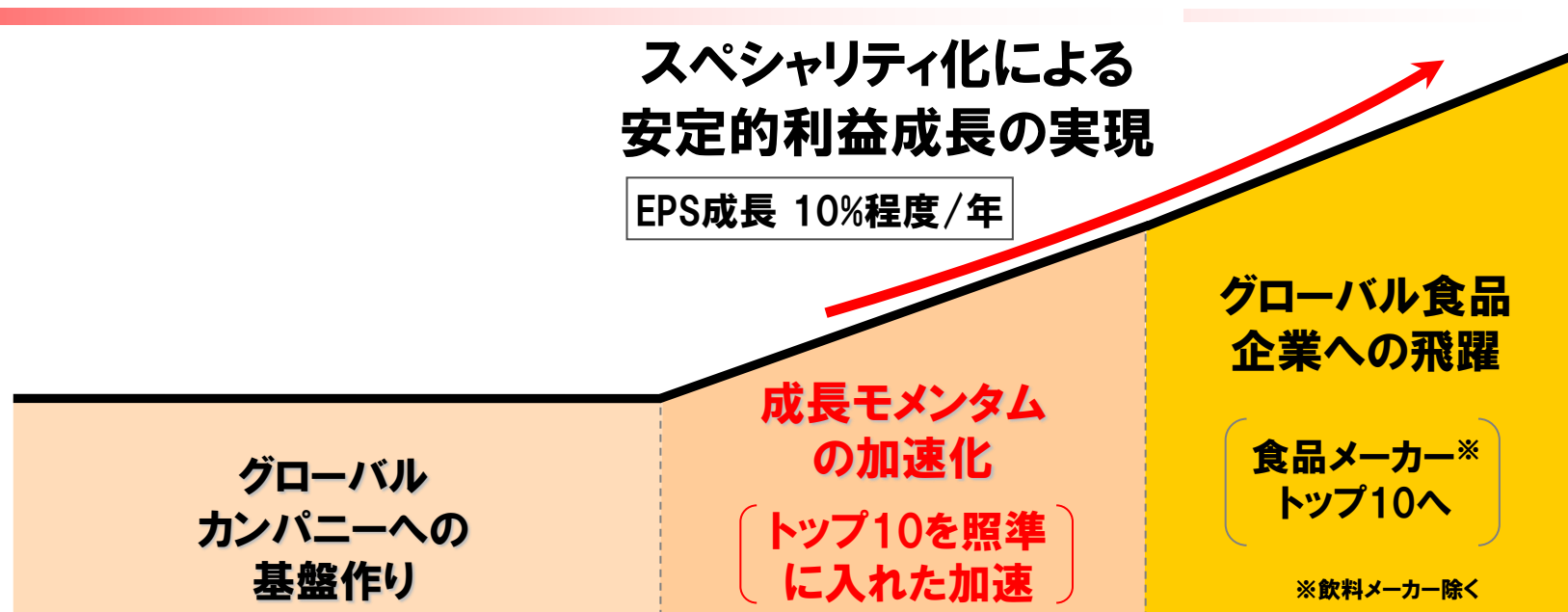
* バルク事業：加工用うま味調味料、動物栄養、甘味料

「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」に向けたロードマップ

～ グローバルトップ10を照準に入れ、成長を加速させる ～

スペシャリティ化による
安定的利益成長の実現

EPS成長 10%程度/年



	FY2011 実績	FY2012 実績	FY2013 実績	FY2014 実績	FY2015 修正予想	FY2016 (目標)	FY2020～ (目指したい姿)
営業利益:億円 (営業利益率:%)	726 (7.5)	712 (7.5)	618 (6.5)	745 (7.4)	860 (6.8)	910 (8)	1,500 (10)
ROE	6.9%	7.8%	7.1%	7.4%	9.8%	9%	10%～
EPS	61.3円	74.4円	68.7円	78.5円	114.7円	100円	150円
のれん等除く営業利益:億円*1 (営業利益率:%)				753 (7.5)	930 (7.3)		
のれん等除くROE*1				7.4%	10.5%		
のれん等除くEPS*1				79.4円	123.7円		
バルク事業利益比率*2	23%	19%	—	15%	15%	10%程度	10%

*1 ウィンザー社、AGF社ののれん、無形固定資産の償却費を除いて算出した参考値。

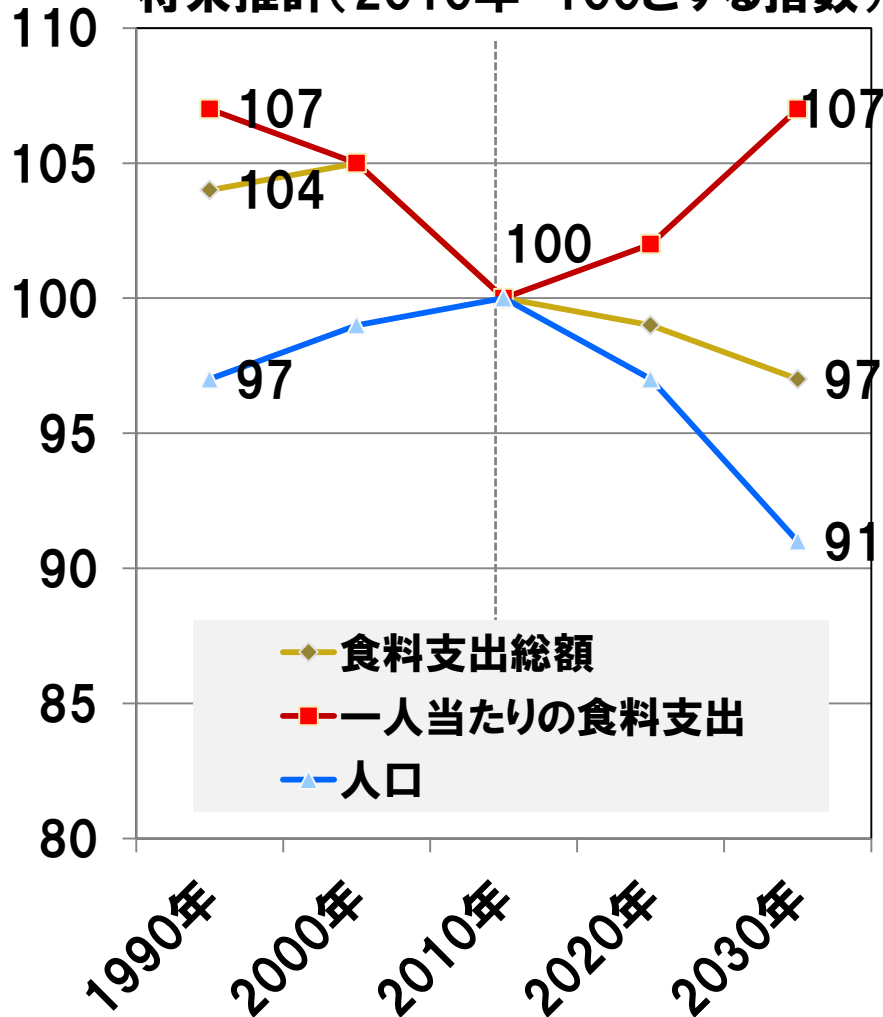
*2 バルク事業:加工用うま味調味料、動物栄養、甘味料。

II. GROW 成長モメンタムの加速化

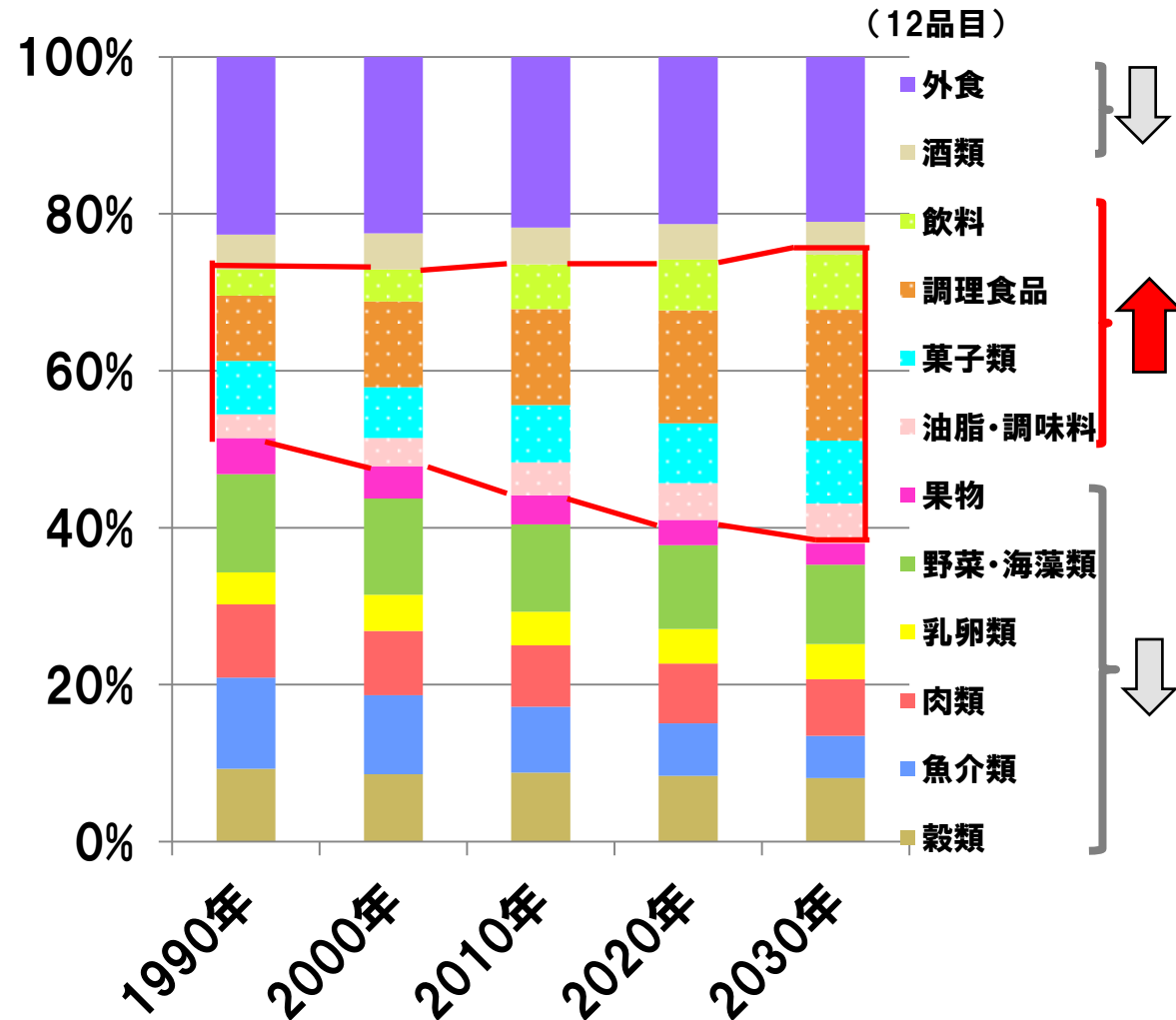
- (1) 日本食品 / 調味料・加工食品**
- (2) 日本食品 / 冷凍食品**
- (3) 日本食品 / コーヒー類**
- (4) 海外食品 / 調味料・加工食品**
- (5) 海外食品 / 冷凍食品**
- (6) ヘルスケア / アミノ酸、医薬、その他**

(1) - 1. 国内市場環境～人口減少と食の外部化・簡便化傾向～

食料支出総額、一人当たり食料支出の将来推計(2010年=100とする指数)



品目別食料支出割合(全世帯)の将来推計



出典：農林水産省政策研究所2014年6月「人口減少局面における食料消費の将来設計」改編

(1) -2. 独自の素材・技術によるスペシャリティ事業領域拡大

「おいしさ」を構成する全領域において、当社独自の素材・技術を活かし、当社にしかできない顧客価値の提供により、成長を維持する。

●長谷川香料(株)との
業務提携
(2015年8月発表)

当社独自技術
配合、造粒、
速溶性など

当社独自素材
新規コク味物質
醸造香、風味
減塩・減糖・減脂

基盤技術
分析技術
評価技術 など

「キッチン・バリュー・チェーン®」
マーケティング調査等

顧客機会発見力

顧客ニーズ、環境の変化
新興国・途上国
経済発展
都市化・核家族化
先進国
世帯人数減少
有職主婦
料理男子
アクティブシニア



2015年秋季改訂



2015年秋季新製品



2015年
春季新製品



2015年秋季新製品

日本発の技術、ノウハウを世界中に展開

(1) -3. スペシャルティ事例紹介



●「Cook Do® おかずごはん」
 <アジアン鶏飯用> ※首都圏1都7県にて発売中

- ・低負荷レトルト殺菌技術により
自然な鶏だしの風味を再現。
- ・「肉のだし成分」で、
鶏だし感・鶏の油脂感をUP。



●「味の素KKお米ふっくら調味料」
 <外食用>

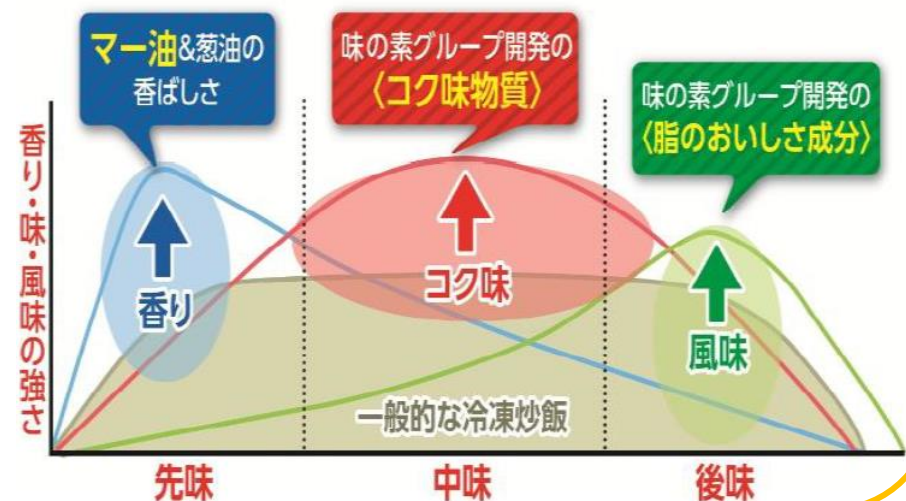
- ・酵素技術により、水の量を調整して炊くだけで、お米の持つ保水力をひきだし、
ごはんのふっくらした食感を長時間保持。



●味の素冷凍食品社「ザ・チャーハン」

- ・味の素社開発の新規**コク味物質**、
脂のおいしさ成分を活用。
- ・プロの中華料理人が作る炒飯の
味わいをご家庭で再現。

【口の中での香り・味・風味の広がり方(イメージ)】

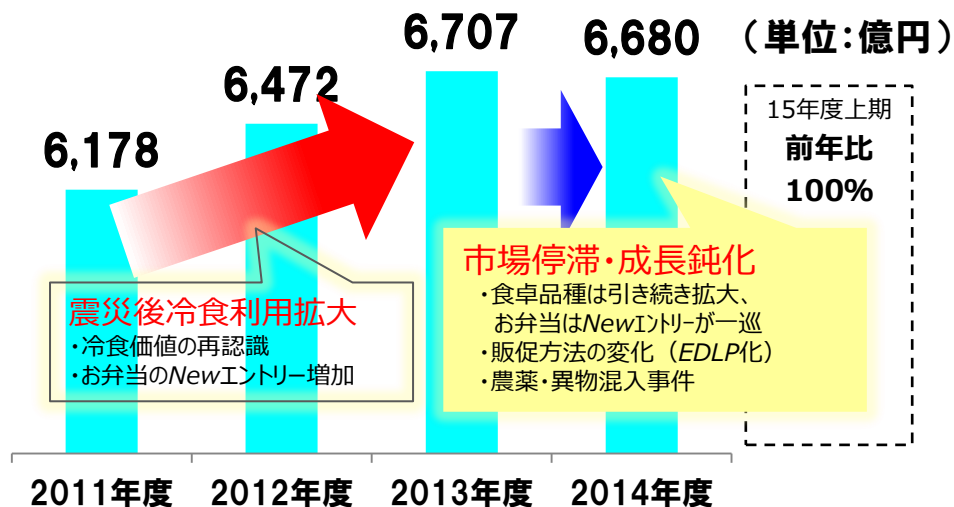


(2) 国内冷凍食品市場環境および今後の見通し

国内冷凍食品市場環境

◆家庭用

食卓市場は拡大するも弁当市場が縮小し、全体では前年並み。



国内家庭用調理冷凍食品市場（2015年 味の素冷凍食品社調べ）

◆業務用

惣菜は順調、外食・給食は堅調に推移し、全体では前年をやや上回る。

今後の見通し

◆家庭用

「ギョーザ」、「やわらか若鶏から揚げ」、米飯等の食卓向け製品の販売強化し、回復を図る。



2015年秋季新製品
「ザ・チャーハン」

◆業務用

引き続き、餃子類、鶏肉加工品を中心に、惣菜市場や大手需要家との取り組みを拡大。

◆生産性向上

米飯・デザートが生産性向上の本格化。

(3) 味の素ゼネラルフーズ社（AGF社）とのシナジー創出の加速

2015年4月～新規連結化

シナジー創出の方向性

R&D融合

+

国内：グループ連携強化

海外：飲料事業のエリア・
製品領域拡大加速化

+

ガバナンスの強化

～伸長している主な商品～



<AGF社>
パーソナル領域
(スティック等)

<タイ味の素販売社>
缶コーヒー・スティック

主な取り組みテーマ

R
&
D

- ・飲料領域のグローバルセンター化
⇒おいしさの科学、粉体設計技術の共同研究開始
⇒センター機能移管に向けた新体制づくり開始

国
内

- ・ギフト事業のAGF社への統合（2016年4月）
⇒“食・嗜好飲料と健康”価値創出
⇒パーソナルギフト領域の強化
- ・外食卸ルートでの協業（味の素社によるAGF社商品の販売）
(2015年10月東京・関東・東北から開始)

海
外

- ・飲料事業既存展開国へのAGF社技術支援（2015年9月～）
⇒タイ「Birdy®」の品質向上、コストダウンから開始
順次ブラジル・ベトナム・フィリピンに展開
- ・新エリア展開、新事業領域拡大に向けた
フィジビリティスタディ（2015年下期～順次展開）
⇒リテール事業新規参入
⇒既存事業展開国での領域拡大：
タイ、ブラジル、ベトナム、フィリピン
⇒日本からの輸出により、外食向け展開：アジア

購
買

- ・集中購買および共同調達によるコストダウン

(4) 海外食品

～ 海外コア展開国“Five Stars”を起点とした飛躍的成長で、日本に次ぐ国・エリアの柱をつくる ～

2倍、3倍を目指す“**Five Stars**”：FY2015売上高 全ての法人、現地通貨ベースで二桁成長実現。

○：2020年度に向けた売上げ拡大規模
(対2012年度、現地通貨ベース)



- ・ 中間～上流所得層の拡大
- ・ 食生活/チャンネルの近代化

◆タイ：主力事業「味の素®」・風味調味料に加え、メニュー用調味料、「Birdy®」のトップライン拡大。

「Birdy®」全面刷新(11月)
Espresso/Latte/Black



◆ブラジル：新領域メニュー用調味料(「Satis!®」)で新品種9品を追加発売(計12品種)。

◆インドネシア：冷凍パン事業の新会社を設立(7月)。2016年7月、新規市場参入予定。

ベトナム新製品「うめちゃん」



◆ベトナム：健康素材を軸に新規参入。濃縮梅エキス製品「うめちゃん」を発売(10月)。

◆フィリピン：「味の素®」、風味調味料「GINISA®」「PORKSAVOR®」で調味料市場No.1のプレゼンスを確固たるものとする。

Five Stars	GDP成長率 *出典: IMF		当社伸長率 (FY15上期)	主要商品販売状況: 調味料好調 (前年比: 現地通貨ベース)
	CY14 (実績)	CY15 (見込)	現地通貨ベース	
タイ	100%	103%	101%	「味の素®」106%、「RosDee®」106%
ブラジル	99%	98%	106%	「Sazón®」110%、「SABOR AMI®」107%
インドネシア	104%	104%	114%	「Masako®」117%、「味の素®」104%
ベトナム	105%	105%	110%	「味の素®」109%、「Aji-ngon®」108%
フィリピン	104%	105%	111%	「味の素®」107%、「Ginisa®」115%

(5) 味の素ウインザー社の冷凍食品事業の取り組み ～シナジー創出を加速～

2015年4月1日、味の素ウインザー社を設立し、北米コンシューマー事業を統合

基本方針：2020年までに北米冷凍食品事業規模1,000億円超を実現し、日本食・アジア食の圧倒的No.1を目指す。

①味の素グループの生産・開発技術



②旧ウインザー社との統合により強化された顧客基盤

日本食・アジア食の製品ポートフォリオ強化と、収益構造の強化

①味の素グループ技術による収益構造強化

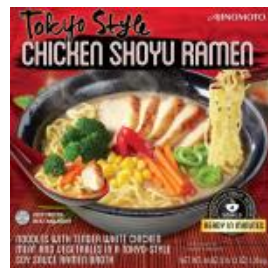
- 生産性改善の推進
- R&D体制の再構築



生産性改善活動の様子

①冷凍麺 生産基盤強化

- 東洋水産(株)との合併により、味の素東洋フローズンヌードル社を設立（2015年4月）
- 同社による冷凍麺生産工場の建設（2015年6月着工、2016年3月完工予定）



先行して発売している
「**日式ラーメン**」



②顧客基盤を活かした販売拡大

- 日式ギョーザ等の主力製品の旧ウインザーチャンネルへの導入（2015年4月導入）



ポートランド工場(旧AJINA社)生産の水なし油なしで焼ける日式ギョーザ

①冷凍米飯 生産基盤強化

- 生産能力の増強、効率的な供給体制構築のためオークランド工場に冷凍米飯生産ラインを新設（2015年9月着工、2016年8月完工予定）



販売が好調な
「**YAKITORI CHICKEN FRIED RICE**」



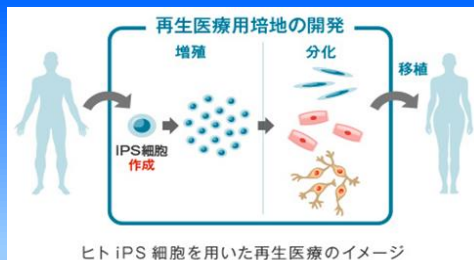
オークランド工場

(6) -1. バイオ・ファイン技術を活用したヘルスケア事業の強化

医薬・医療の進化

当社の取り組み

再生医療



・iPS/ES細胞を効率的に増殖できる培地 (世界最高水準)



iPS/ES細胞用
臨床研究用培地
(2014年10月発売)

「StemFit®」AK03



iPS/ES細胞用
基礎研究用培地
(2015年10月発売)

「StemFit®」AK02N

バイオ医薬
(高分子医薬)



・味の素ジェネクシン社(韓国): バイオ医薬品用培地製造

・味の素アルテア社(アメリカ): バイオ医薬を中心とした製剤化やタンパク製造受託および成長が見込まれるADC(抗体医薬複合体)領域への参入 (着工:2015年3月、完工:2017年1月)

低分子医薬



・抗がん剤などの医薬中間体や原薬の受託製造
(味の素オムニケム社;ベルギー、グラニュールズ・オムニケム社;インド)

・消化器疾患領域の医薬品製造・販売
(味の素製薬社→2016年4月～新統合会社 EAファーマ社)

(6) -2. バイオ・ファイン技術を活用したヘルスケア事業の強化

「アミノインデックス技術」を通じた、健康診断支援(生活～医療)

「アミノインデックス技術」の概要

・5mlの血液(採血1回分)で血液中のアミノ酸濃度を測定し、現在の健康状態や疾病のリスクを明らかにする技術。

<がんリスクスクリーニング(AICS®)> 2011年～

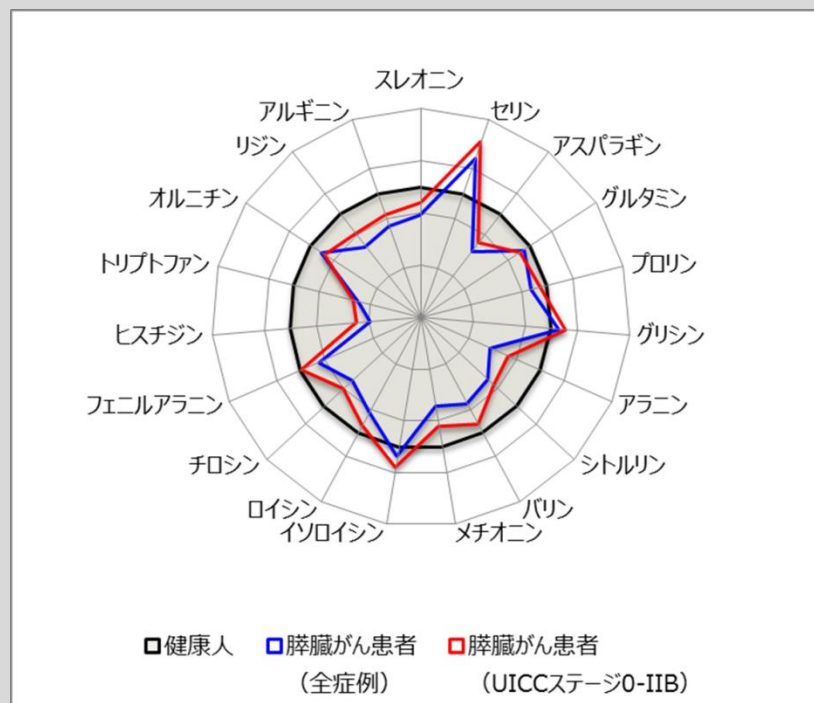
・がんであるリスクを評価する検査

7種類のがん

- 胃がん、肺がん、大腸がん
- **膵臓がん(2015年8月24日～)**
- 前立腺がん(男性)
- 乳がん、子宮・卵巣がん(女性)

★「アミノインデックス®」(がんスクリーニング、メタボリックスクリーニング)は神奈川県の未病産業創出事業の商品
・サービスとして、「ME-BYO BRAND」認定。(2015年8月)

膵臓がん患者の血中アミノ酸濃度バランスの変化



III. FIT 更なる事業構造強化

- (1) コモディティバルク事業のスペシャリティ化**
- (2) 低資源利用発酵技術**
- (3) 課題事業の構造強化**

(1) - 1. コモディティバルク事業のスペシャリティ化
～ バルク依存度の低減 ～

動物栄養

FY2014 32% ⇒ FY2015 50%

バリン、「AminoGut®」等堅調に推移、
「AjiPro®-L」は需要開拓加速し、
スペシャリティ比率50%を見込む。

加工用うま味調味料

FY2014 70% ⇒ FY2015 71%

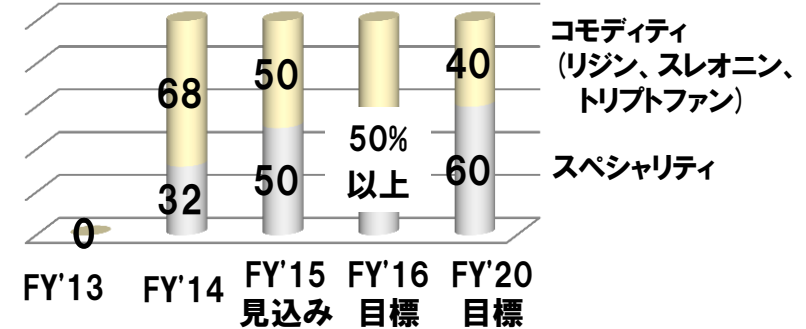
リテール「味の素®」、風味調味料、
メニュー用調味料が伸長。
バルクはコストダウンで事業構造強化継続。

甘味料

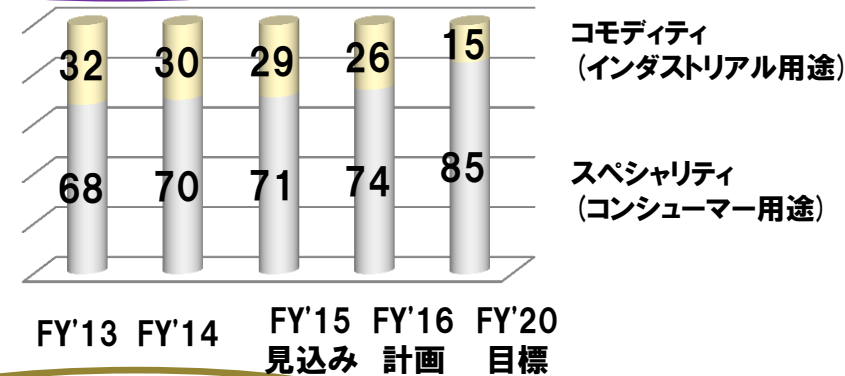
FY2014 49% ⇒ FY2015 50%

バルクは欧州工場を売却。
リテールは海外の需要期に向けて販売加速。

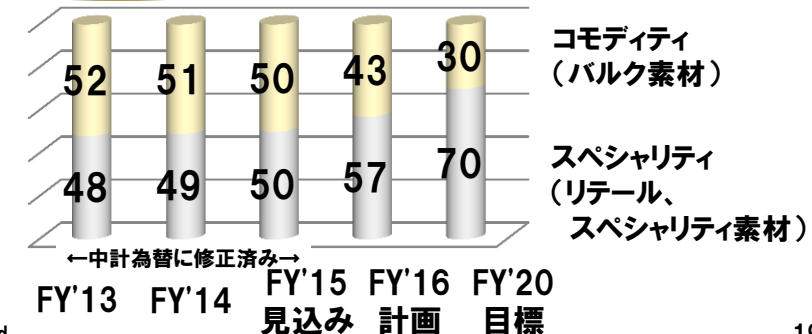
動物栄養（営業利益構成比。%）



MSG（重量ベース。%）



甘味料（売上ベース。%）



(1) - 1. コモディティバルク事業のスペシャリティ化 ～ 動物栄養のスペシャリティ化の取り組み ～

動物栄養事業のスペシャリティ

アイテム	市場／特徴
Valine	鶏・豚用、グローバル市場開拓中
AjiPro®-L	乳牛用、北米からグローバル市場へ
AquaLys®	水産用、南米
AminoGut®	子豚の健康な成長補助
その他	地域ごとに展開



「AjiPro®-L」の取り組み

2014年9月～
第二世代品
導入

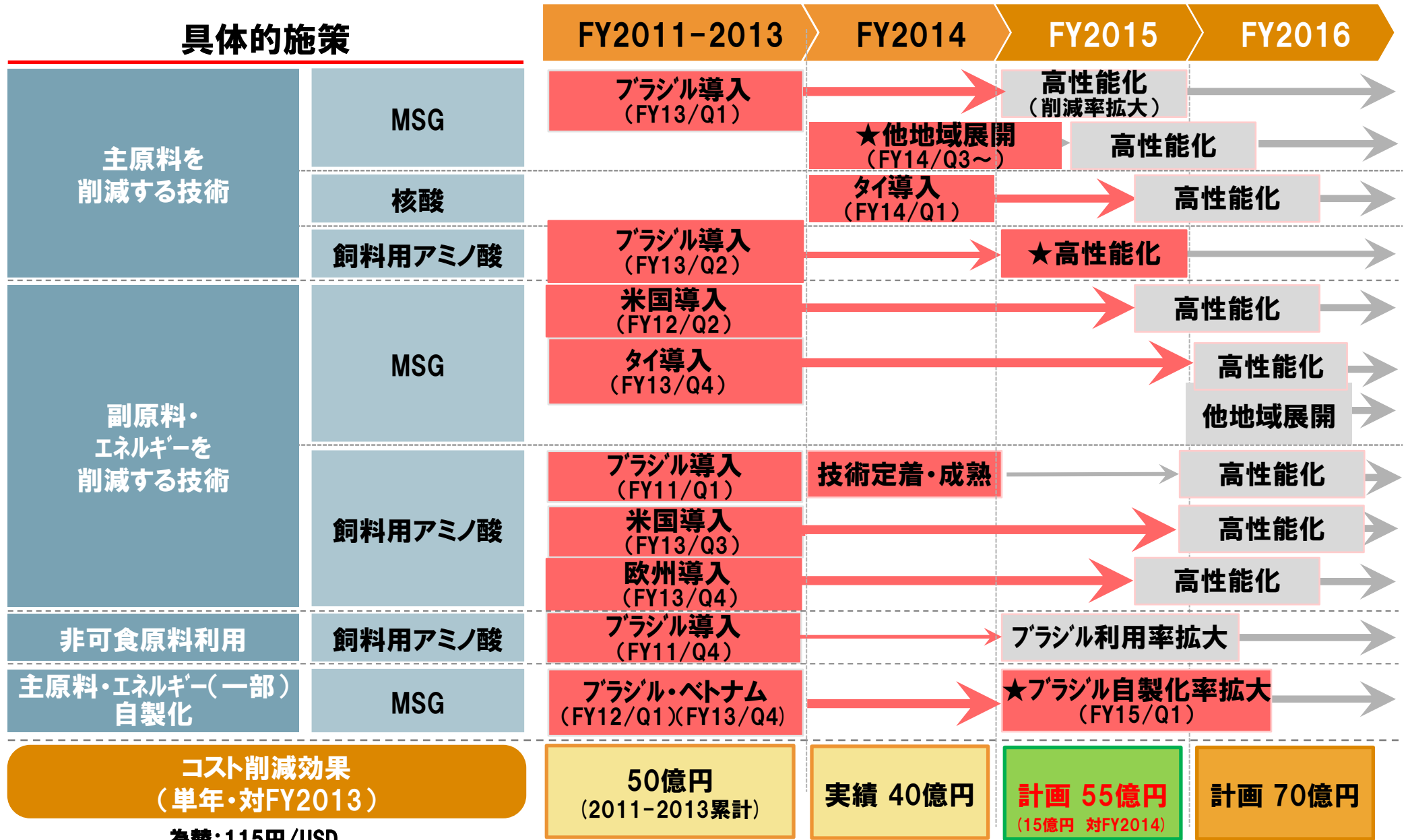
2015年1月
増産完工
1,500→6,500トン/年

2015年4月～
日本国内、欧州一部
で販売開始

- ・第三世代品導入
- ・他エリアへの展開
(アジア、中国、欧州)
- ・更なる増産

(2) 低資源利用発酵技術の進捗（R&Dのリーダーシップ）

～2015年度で**55億円**のコスト削減を計画～



(3) 課題事業の構造強化

甘味料事業(アスパルテーム)

取り組み

*2015年8月27日、10月16日発表

- ・フランスの生産・販売子会社全株式売却
- ・譲渡先:ハイエットホールディング社(オランダ)
- ・譲渡金額:1ユーロ(約135円)
- ・譲渡日:2015年10月15日
- ・特別損失:約70億円

期待される効果

- ・生産を東海工場(三重県)一カ所に集約することにより、高い設備稼働率と総固定費削減を実現する。
(営業利益への影響:2015年度+約5億円)



医薬事業(味の素製薬社)

取り組み

*2015年10月15日発表

- ・新統合会社名:EAファーマ株式会社
- ・統合内容:エーザイ株式会社の消化器疾患領域事業を分割し、味の素製薬社が吸収分割の方法により継承。
- ・設立予定日:2016年4月1日
- ・株主構成:エーザイ社 60%、味の素社 40%
- ・目指す姿:国内最大の消化器スペシャリティファーマ

統合の意義

- ・品揃えの拡充による幅広いソリューション・情報提供。
- ・継続的な新薬創出に向けたパイプラインの拡充。
- ・総合シナジー創出による競争力強化。

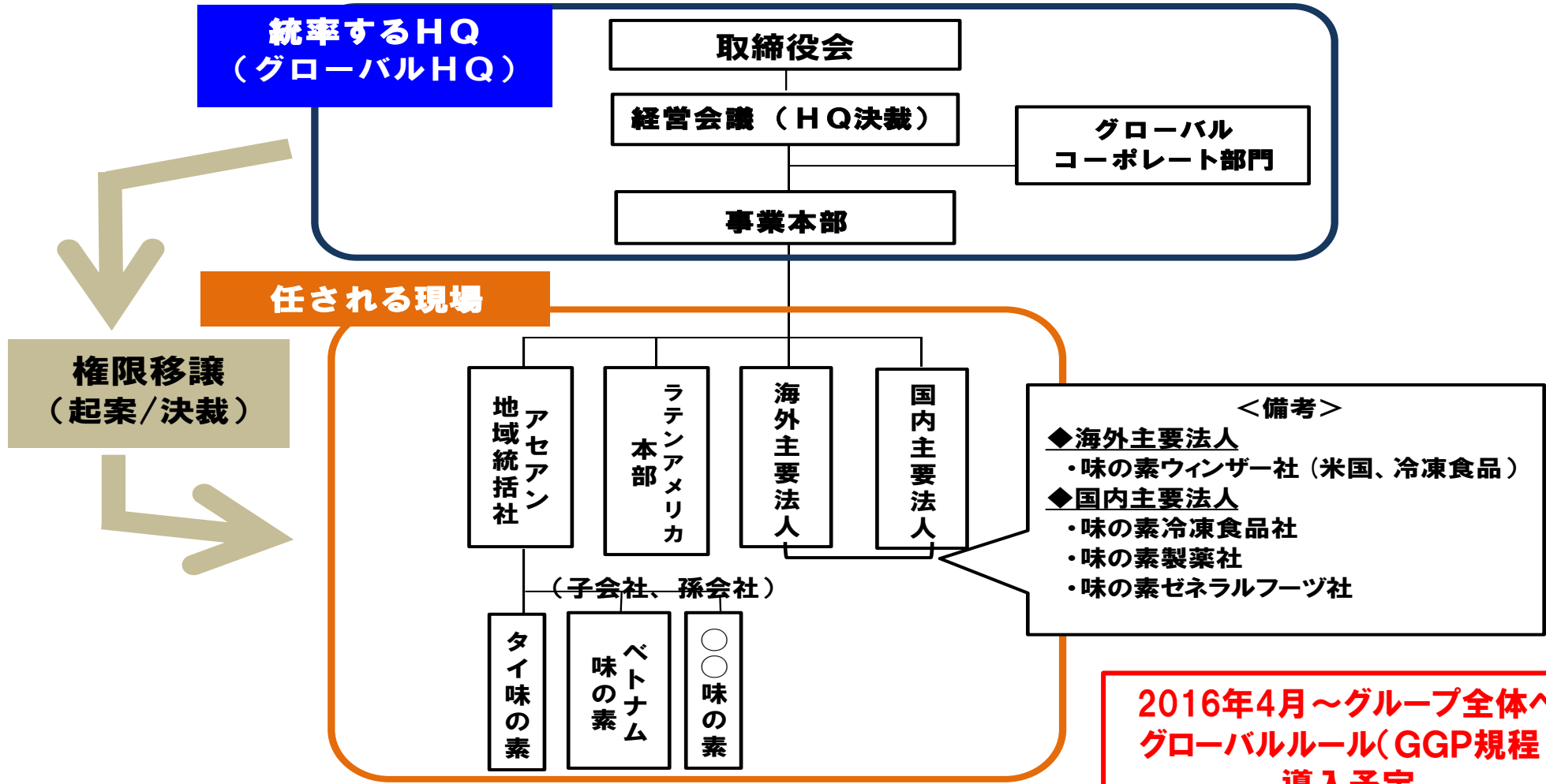
IV. 経営基盤の進化

グローバル・ガバナンス

～「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」の実現に向けて～

グローバル・ガバナンス・ポリシー <GGP> (2014年10月導入)

「統率するHQ」と「任される現場」による迅速な意思決定と事業成長の加速



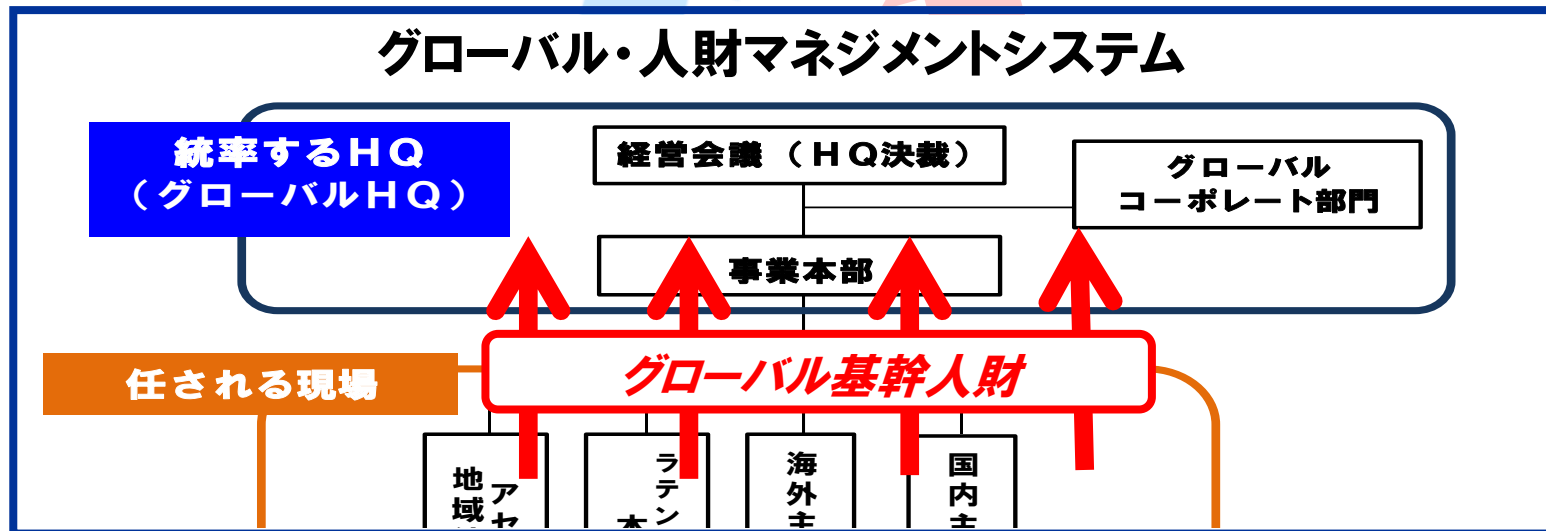
グローバル・人財マネジメント

～“人材”から“人財”へ 人は“資源”ではなく、大切な“資産”～

グローバル・人財マネジメント（200名の次期経営人財母集団形成）

「統率するHQ」と「任される個社」というガバナンス体制における

分厚い人財層の形成



ポジションマネジメント

必要とされる職務要件、人財要件を
明確にした人財評価

タレントマネジメント

適所に適材を任用、登用
人財の発掘・育成を実行

味の素グループWay(共通の価値観)の浸透

V. ESGの取り組み

今後のESG関連への取り組みの方向性

～ASV(Ajinomoto Group Shared Value)の戦略的展開～

【世界の動き】

2030年をゴールとする
持続可能な開発目標 (SDGs*)
(2015年9月25日 国連で採択)

*SDGs:Sustainable Development Goals

【当社の目指す姿】

確かなグローバル・
スペシャリティ・
カンパニー

【当社の近況】

Dow Jones サステナビリティ
ワールドインデックスに選出
(2年連続)



E(環境)S(社会)G(企業統治)に対する明快なポリシー策定
事業を通じた社会貢献＝社会課題の解決を目指す

Environment(環境)

Society(社会)

Governance(企業統治)

情報共有
コミットメント

ステークホルダー

- ・株主
- ・顧客
- ・地域社会
- ・従業員 他

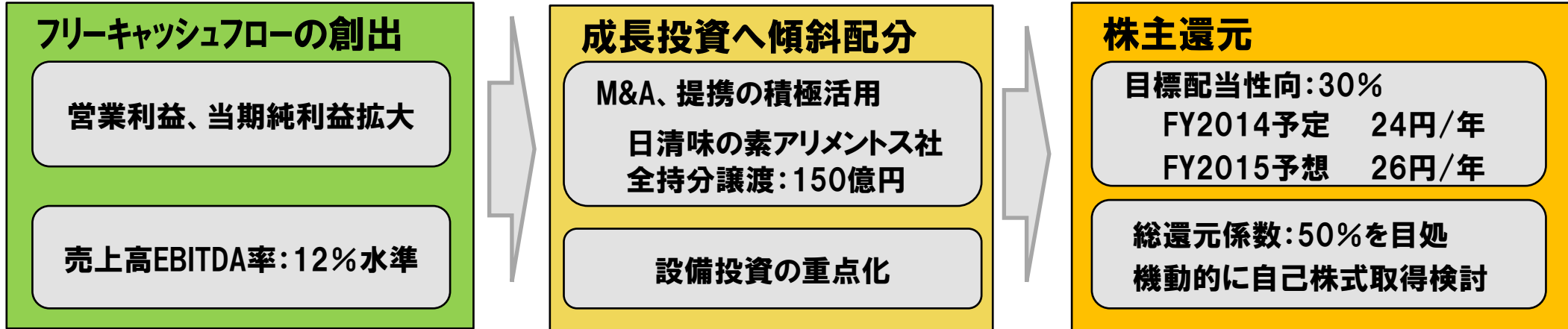
2017-2019中期経営計画でESG目標を具体化

VI. 2016年3月期 財務戦略

2016年3月期 財務戦略

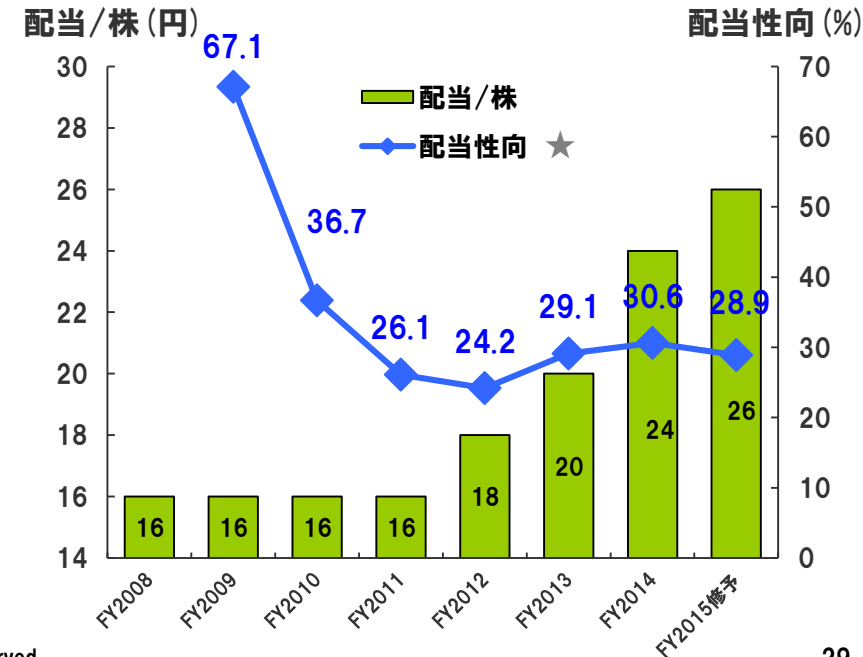
～ 成長投資と株主還元 ～

営業キャッシュフローを成長投資に優先的に投下、更に株主還元を充実させる。



<キャッシュフロー用途の優先順位と株主還元の方針>

- ・2014-2016中期経営計画の方針に変更なし。
- 成長投資案件: 自社にて様々な可能性を検討。
- フリーキャッシュフロー目標: 1,200億円 (3年間)
- 資金調達: 有利子負債 (ネットD*/Eレシオは上限50%)
*ネットDは有利子負債-現預金×75%
- 配当性向: 単年度 30%
- 総還元係数: 2014-2016中期経営計画期間(3年間)
累計 50%



★日清味の素アリメントス社の持分譲渡で得た特別利益を分母に含めない前提

2016年3月期 財務戦略

～ 自己株式取得 ～ ＊2015年11月15日発表

株主還元水準の向上および資本効率の改善を目的とし、自己株式取得実施を決定。

1. 取得対象株式の種類：普通株式

2. 取得し得る株式の総数：20百万株*（上限）

＊発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合3.38%

3. 株式の取得価額の総額：300億円（上限）

4. 取得期間：2015年11月6日から2016年2月24日まで

5. 取得方法：信託方式による市場買付

6. その他：本件により取得した自己株式については、全社法第178条の規定に基づく取締役会決議により、全て消却する予定。

＜参考＞2015年9月30日時点

発行済株式総数（自己株式を除く） 591,781,348株

自己株式数 2,689,306株

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO®

參考資料

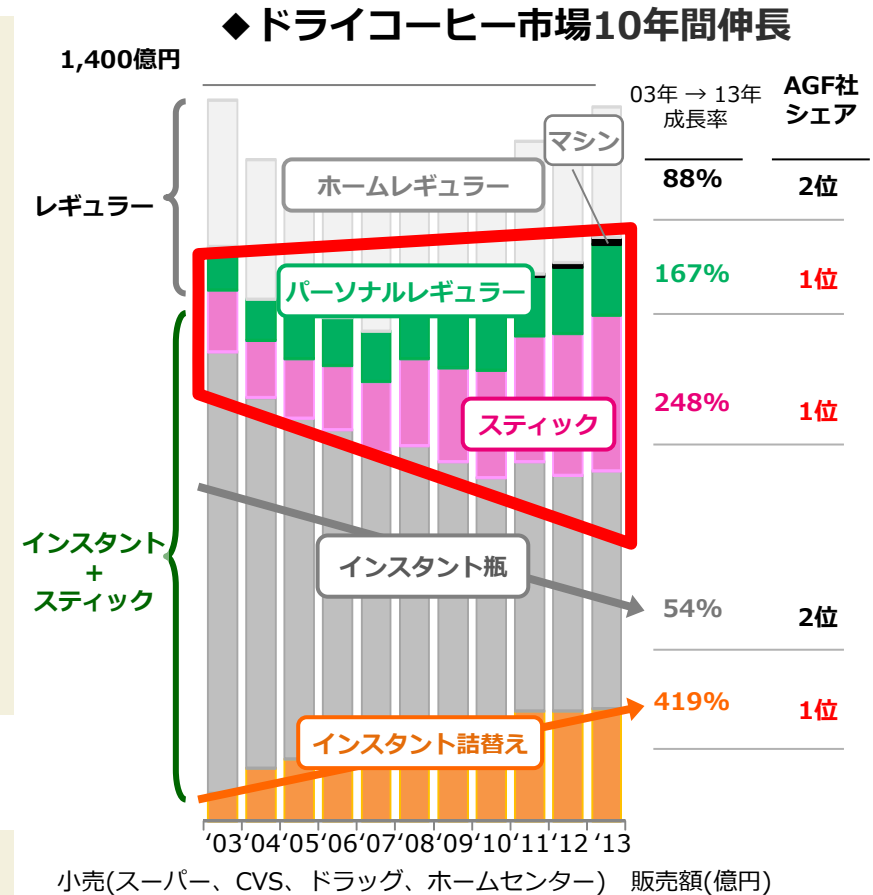
【参考】日本のコーヒー市場概況

1. 日本のコーヒー市場 (2013年)

- 消費者購入価格 : 2兆8千億円
(嗜好飲料市場の75%)
- コーヒー生豆消費量 : 45万トン 世界第4位
(世界計900万トン)
- 一人当り杯数/年 (10g/1杯) : 351杯
年間合計 530億杯
- 特徴: アウトホーム(屋外:CVSカウンターコーヒー、
オフィス)とパーソナル(スティック等)が牽引。
今後も拡大。

2. 日本のドライコーヒー市場の特徴

- パーソナル(スティック等)が拡大。
1杯単価はインスタントコーヒーの2倍以上。



(出典: インテージSRI)



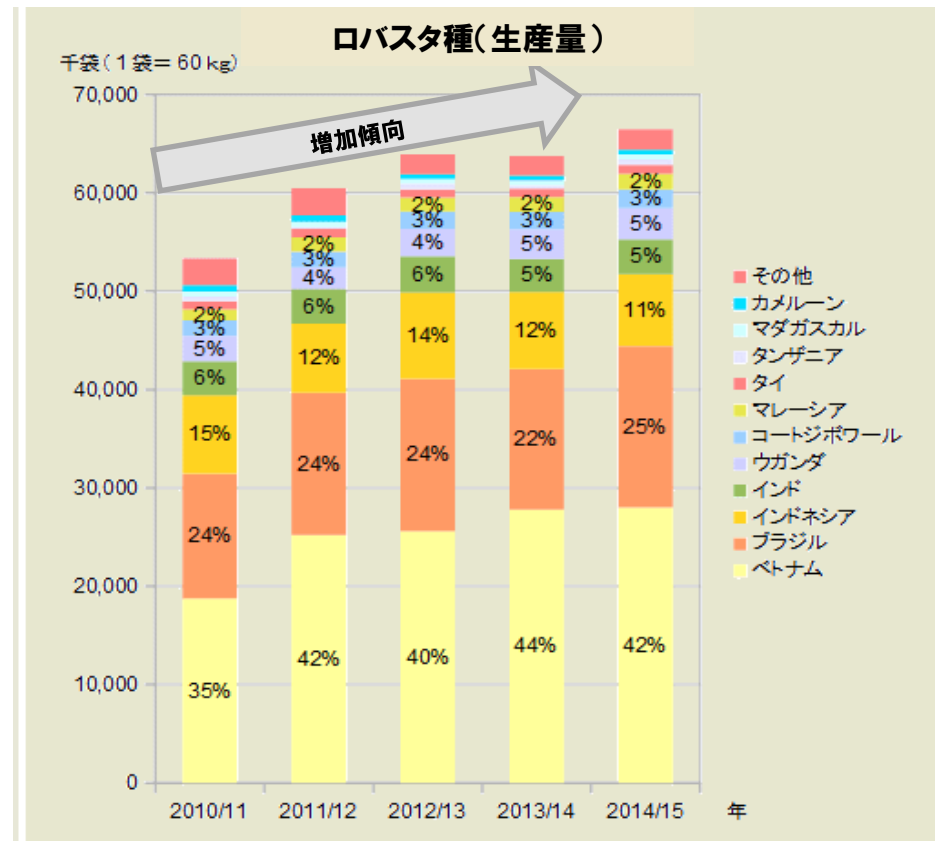
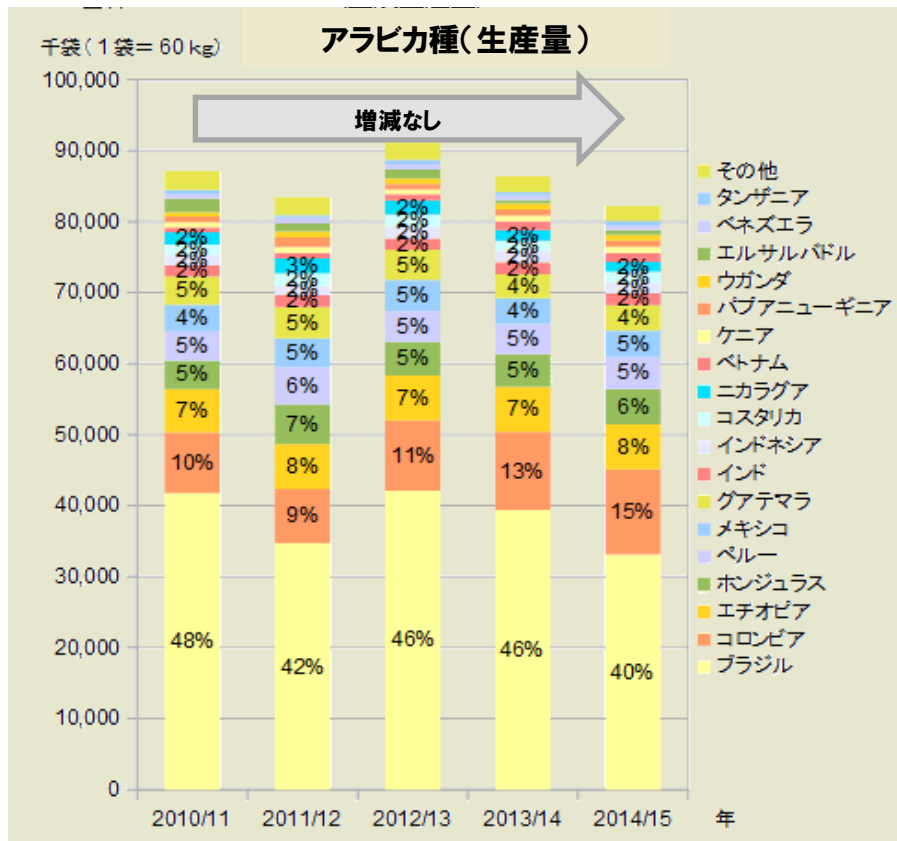
【参考】コーヒー豆の基本情報

1. 生産量: 900万トン

2. 生産量比率および主要生産国: 2014年/2015年

アラビカ種 55%(ブラジル、コロンビア、エチオピア)

ロバスタ種 45%(ベトナム、ブラジル、インドネシア)



(出展: USDA「World Markets and Trade」)

【参考】2016年3月期予想の前提条件等

為替レート (対JPY)

	平均レート	営業利益への感度(換算時)
USD	120.0	±1円 →約1億円
EUR	135.0	±1円 →約0.5億円
THB	3.5	±0.01円 →1億円弱
BRL	34.0	±1円 →約2億円

貿易為替影響

- 1円安 vs USD → + 約2億円
- 0.1EUR安 vs USD → + 約7億円
- 0.1BRL安 vs USD → + **約3.5億円**
- 1THB安 vs USD → + 約8億円

飼料用アミノ酸

<赤字:変更箇所>

1) 推定市場規模 (千トン)

	FY2013	FY2014	FY2015予
リジン	2,100	2,300	2,250前後
スレオニン	400	445	490前後
トリプトファン	14	23	28前後

2) 当社グループ販売数量 (千トン)

	FY2013	FY2014	FY2015予
リジン	350	350	350前後
スレオニン	110	110	120前後
トリプトファン	5	5	5前後

3) 市場価格 (USD/kg, CIF)

	FY2014	FY2015予想**	
		1H実績	通期
リジン	1.40	1.35前後	1.30前後
スレオニン	2.75	2.45前後	2.30前後
トリプトファン	16.5	12前後	10前後
スプレッド*	250	190前後	180前後

*スプレッド (USD/ST) : シカゴ商品取引所の大豆粕とコーンの価格差。

**弊社業績予想の前提価格とは一致しません。

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO®

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料の金額は、切り捨てで表示しております。